

## 2 中学校英語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果 (到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					97.2	0.1	75	55	◎
1 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					81.8	0.1	70	50	◎
2 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					97.1	0.1	75	55	◎
2 (2)	対話を聞いて、概要を理解する	○			○		○					96.8	0.1	70	50	◎
3 (1)	対話を聞いて、概要を理解する	○			○		○					93.3	0.2	70	50	◎
3 (2)	聞いて得た複数の情報を関連付けながら理解する	○			○		○		○			62.5	0.2	60	40	◎
4 (1)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					97.1	0.1	65	45	◎
4 (2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					95.7	0.2	65	45	◎
5 (1)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○			○		○					80.2	0.6	65	45	◎
5 (2)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○			○		○					69.3	0.6	65	45	◎
6	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					81.3	0.8	70	50	◎
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○			○		○					95.0	0.5	65	45	◎
7 (2)	対話文を読んで、話がどのように展開していくのか、大まかな流れを理解する	○			○		○					72.1	0.9	60	40	◎
8 (1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					76.5	1.0	65	45	◎
8 (2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する	○			○		○					75.3	1.2	65	45	◎
9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○			○		38.8	12.5	75	55	▼
9 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○			○		46.7	12.2	70	50	▼
10 (1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○		○	○			○			60.9	8.2	65	45	
10 (2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○		○	○			○			47.8	11.4	65	45	
11 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		55.7	3.2	65	45	
11 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		56.7	2.9	65	45	
12 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○		○	○			○		61.4	7.6	75	55	
12 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○		○	○			○		70.5	9.2	70	50	◎
12 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○		○	○			○		52.4	13.0	65	45	
13	テーマについて、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○	○						○	○	65.4	12.8	60	40	◎

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)①	強勢, イントネーション, 区切りなどに気を付けて, 音声を的確に聞き取る	○					○	○			98.1	0.3	75	55	◎
1	(1)②	強勢, イントネーション, 区切りなどに気を付けて, 音声を的確に聞き取る	○					○	○			92.1	0.3	75	55	◎
1	(2)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			93.5	0.3	65	45	◎
2	(1)	対話を聞いて, 適切に応じる	○				○		○			87.5	0.4	65	45	◎
2	(2)	対話を聞いて, 適切に応じる	○				○		○			73.8	0.4	65	45	◎
3		まとまりのある英語を聞いて, 話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○				○		○			96.9	0.3	65	45	◎
4	(1)	対話を聞いて, 複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	43.4	0.8	60	40	
4	(2)	対話を聞いて, 複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	75.5	0.6	60	40	◎
5		対話文を読んで, 大切な部分を正確に理解する		○			○		○			71.8	0.7	60	40	◎
6	(1)	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○			○		○			90.3	0.7	65	45	◎
6	(2)	説明文を読んで, 大切な部分を理解する		○			○		○			74.2	0.7	60	40	◎
7	(1)	対話文を読んで, 大切な部分を理解する		○			○		○			78.7	0.7	60	40	◎
7	(2)	対話文を読んで, 大切な部分を理解する		○			○		○			72.0	0.9	60	40	◎
7	(3)	対話文を読んで, 話がどのように展開していくのか, 大まかな流れを理解する		○			○		○		○	69.3	0.9	55	35	◎
8	(1)	疑問文の構造を理解し, 語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○	67.6	10.5	75	55	
8	(2)	疑問文の構造を理解し, 語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○	30.8	16.9	70	50	▼
9	(1)	対話文を読んで, 語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	48.2	1.5	70	50	▼
9	(2)	対話文を読んで, 語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	63.2	1.7	70	50	
9	(3)	対話文を読んで, 語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	30.0	2.1	70	50	▼
10	(1)	前後の関係に注意して一文を書く			○	○			○			57.5	0.9	65	45	
10	(2)	前後の関係に注意して一文を書く			○	○			○			52.8	1.0	65	45	
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	75.0	8.8	75	55	◎
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	39.4	14.8	65	45	▼
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	28.3	13.9	65	45	▼
12		テーマについて, 内容的にまとまりのある一貫した文章を書く			○	○					○	45.3	16.6	55	35	

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、( )内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「十分達成」の基準を共に上回っている。  
[グラフ1、グラフ8]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点「理解の能力」は、「十分達成」の基準を共に上回っており、評価の観点「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ5、グラフ12]
- 中学1年生及び中学2年生の内容・領域「聞くこと」「読むこと」では、「十分達成」の基準を共に上回っており、内容・領域「書くこと」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ6、グラフ13]
- 平成26年度[12月調査]において課題として挙げられていた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問においては、平成27年度[12月調査]では、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。中学2年生では、一般動詞を含む「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表1、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「理解の能力」の正答率は78.9で、「十分達成」の基準65.4を13.5ポイント上回っている。評価の観点「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ5]
- 内容・領域「聞くこと」「読むこと」は、「十分達成」の基準を共に上回っており、内容・領域「書くこと」の正答率は55.6で、「おおむね達成」の基準47.5を8.1ポイント上回っている。[グラフ6]
- 内容・領域「書くこと」の「活用」に関する問題である「テーマについて、内容的にまとまりのある一貫した文章を書くこと」を問う設問の正答率は65.4で、「十分達成」の基準60.0を5.4ポイント上回っている。[表1] (1年生問13)
- 内容・領域「書くこと」において、「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1] (1年生問9(1)、(2))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く  (記述式)	be動詞を含む現在形の平叙文を、対話の流れに応じて疑問文にする。	38.8	12.5	75.0	55.0
1年生 問9 (2)		一般動詞を含む3人称単数現在形の平叙文を、対話の流れに応じて疑問文にする。	46.7	12.2	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くこと、あるいは、疑問文の構造の理解に課題があったと考えられる。be動詞を含む文の構造と一般動詞を含む文の構造の理解があいまいになっていることが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

学習した文法事項については、実際のコミュニケーションの中で文法の操作ができるよう

に授業を仕組む。また、誤りについては、習得が進む中で起こり得るものと捉え、誤りの質に応じたフィードバックを行う。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- ii 活動例として、クイズショーが挙げられる。クイズショーには1人称と2人称でやりとりを行う **What am I?** と3人称でのやりとりの必然性を仕組む **Who is ○○?** がある。まずは、**What am I?** でクイズショーに慣れさせ、段階的に **Who is ○○?** に移行していく。手順としては、
  - 1) 発表者が **He is 129.3 cm tall. He sleeps in the closet. He always helps his friend. Can you guess?** などのクイズを出題する。
  - 2) 聞き手が、情報を聞き出すために **Is he a student? What color does he like? Does he like dorayaki?** などの質問を行う。
  - 3) 発表者は、質問に応答する。
  - 4) 最後に、聞き手が **Is he ○○?** などと質問してクイズの答えを当てる。
 グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化する。また、帯学習として短時間で繰り返し継続的に行うのが望ましい。
- iii 学習した文法事項を活用する際、慣れ親しんだ既習事項や日本語が影響することがある。音声練習によって慣れ親しんだために強い音声結合を起こして生じる誤り、言語形式が影響を及ぼす誤り及び日本語の影響による誤りなどである。何が要因となっているのかを考え、音声による指導、文字の確認及び日本語と対比させての指導などを丁寧に行っていく。

③ 中学2年生

○	評価の観点「理解の能力」の正答率は77.2で、「十分達成」の基準61.7を15.5ポイント上回っている。評価の観点「表現の能力」「言語・文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ12]
○	内容・領域「聞くこと」「読むこと」は、「十分達成」の基準を共に上回っている。内容・領域「書くこと」の正答率は48.9で、「おおむね達成」の基準47.7を1.2ポイント上回っている。[グラフ13]
●	内容・領域「書くこと」において、「対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表2]（2年生問9(1)、(3)）
●	内容・領域「書くこと」において、「質問の答えを適切な表現を用いて書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。（2年生問11(2)、(3)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
2年生 問9 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く  (記述式)	対話の流れを理解し、疑問詞を含む疑問文を正しい語順で書く。	48.2	1.5	70.0	50.0
2年生 問9 (3)		対話の流れを理解し、不定詞を含む平叙文を正しい語順で書く。	30.0	2.1	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

(1)については、What do you like sport? という誤答例が考えられる。(3)については、want と went を混同して、went to の後に動詞 study を書いたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

語順や修飾関係などにおける英語と日本語の違いに配慮しながら、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させたい。また、学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項と合わせて整理をする。
- ii 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- iii 使用場面に配慮した活動例として、Small Output 活動の一つである Read Between the Lines and Write がある。生徒は、本文音読終了後、本文の行間を読み取り、対話文が自然な流れになるように英文を書き加える。行間には、つなぎ言葉や相づち、相手の発話を促すような表現及び質問への応答に更に一文を加えるなどして、対話文がより豊かになるようにする。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
2年生 問11 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	質問に対する自分自身の答えを3語以上で答える。	39.4	14.8	65.0	45.0
2年生 問11 (3)	(記述式)	質問に対する自分自身の答えを3語以上で答える。	28.3	13.9	65.0	45.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

自分の日常生活について説明することや体験を踏まえて自分の考えや気持ちを書いて表現することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。活動例としては、Chat が挙げられる。教師は既習事項を基に質問カードを準備する。質問内容は生徒にとって身近な内容にする(What sport do you like? What did you do yesterday? など)。手順としては、

- 1) 生徒が、ペアをつくりじゃんけんで勝った方がカードを取りに来る。
- 2) じゃんけんで勝った方から会話を始める。
- 3) 立って会話をを行い、途中4秒くらいの間が空いたら座る。
- 4) 座ってから時間も時間いっぱい会話を続ける(教師は、生徒の実態に応じて時間を設定する)。
- 5) 振り返りカードに何を話したかを記録する。

この活動は毎時間の授業の始めに行い、慣れてきたら、毎回違うパートナーと毎回違う話題で会話を続ける。なお、会話を続けるためには、つなぎ言葉や相づちの表現などを適宜、指導する。詳細については中学校学習指導要領解説外国語編〔言語の働きの例〕を参照する。

(3) 改善のポイント

① 文法指導は、使用場面と言語の働きを十分に理解させた上で言語形式への気付きを促し、習得していく段階で起こる誤りについては適切にフィードバックを行うこと

- ・ 新出の文法事項を指導する際には、言語形式の説明で終わらないようにする。生徒は、使用場面と言語の働きの理解があつて初めて意味を理解することができ、その文法事項が必要であることが分かる。場面設定では、生徒が興味をもつ話題を選ぶ。生徒にとってなじみのある生活の一場面や地域の特徴及び旬な話題を利用する。学習した文法事項を活用する必然性をもたせるような仕掛けを取り入れることもポイントである。
- ・ 「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問で、課題となった3つの設問の共通点は、対話文の中で3人称に関わる文法の操作ができるかということである。中学2年生の同じ趣旨の設問でも2人称に関わるものについては「おおむね達成」の基準を上回っていることから、ペアによるQ&A形式の言語活動は充実しているものの、第三者について言及するための場面設定やグループによる言語活動が不足していることが考えられる。以上のことから、即興で話す対話形式の活動を、学習形態の工夫を含めて系統立てて行っていくことが求められる。また、be動詞と一般動詞を混同した誤答については、音声練習の結果による音声結合の影響、既習事項の影響及び日本語の影響などを整理した上で、音声による指導、文字による構造の確認を丁寧に行う。誤りに対しては寛容な姿勢で、使わせながら適切にフィードバックする。

② 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること

- ・ 文法事項を指導する際には、まず、関連する既習の文法事項を提示する。次に、生徒に既習の文法事項を意識させてから新出の文法事項を提示する。そうすることで、生徒は既習の文法事項と新出の文法事項を対比して、それぞれの形式、意味及び機能の違いに気付く。教科書では、関連する文法事項が順番に連続して配列されているわけではないので、教師自身が3年間で指導する文法事項を頭に入れておく必要がある。その上で、関連する文法事項を適宜、まとめて整理して体系的に理解させるようにする。
- ・ 例えば、修飾構造に関して言えば、3年間で学習する名詞の修飾は、以下のようなものがある。まず、**a white dog**、**a big white dog** など、形容詞1語や2～3語による日本語と同じ語順の前置修飾を学習する。次いで、現在分詞や過去分詞が1語の場合も、前述したものと同様に **a running dog** のような前置修飾として学習する。後置修飾の構造になっているものは、1年生では **a dog in the yard** のような前置詞句、2年生では **a dog to feed** のような to 不定詞を用いた動詞句、3年生では **a dog running in the yard**、**a dog loved by children** のような現在分詞や過去分詞を用いた動詞句を学習する。3年生の最後には、**the dog I saw in the town**、**a dog that leads a blind person** など、より複雑で長い修飾を可能にする接触節や関係代名詞を用いた節による後置修飾の構造を学習する。関係代名詞については、2文を1文にするという指導法や練習が広く行われてきたが、「どんな犬なのか」という「修飾」の視点をもたせることで、名詞の修飾について体系的に理解させることができる。既習の文法事項と新出の文法事項を黒板で対比させながら口頭による英作文に取り組みせたり、既習の文法事項については、教科書を使って確認させたりする。時間制限をすると活動が活性化する。教科書は前の学年で使用したものも持たせておき、常に振り返りができるようにしておくといよい。前の学年の教科書の準備が難しければ、ワークシートを工夫するなどして、教科書を参照できるようにする。

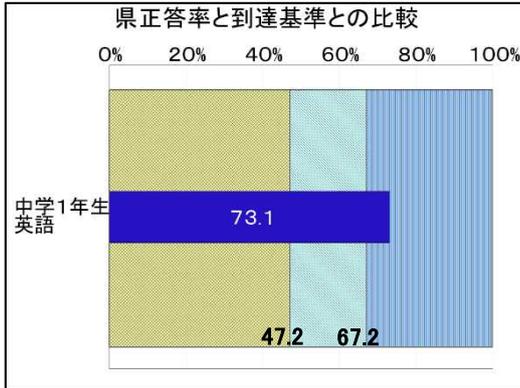
◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「4技能『聞く・話す・読む・書く』を関連付けた中学校英語科学習指導の工夫」という研究テーマで、「書くこと」の指導の充実を目指した授業実践を提案しています。また、3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」を軸とした授業改善について、Webアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

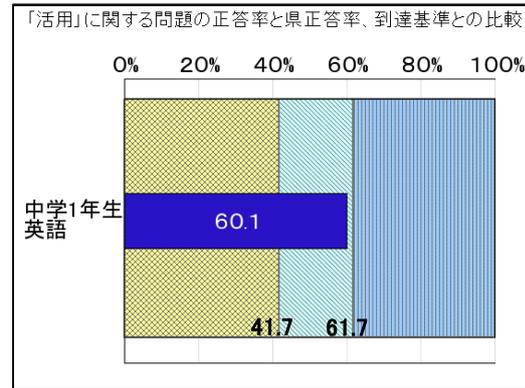
<資料>

① 中学1年生

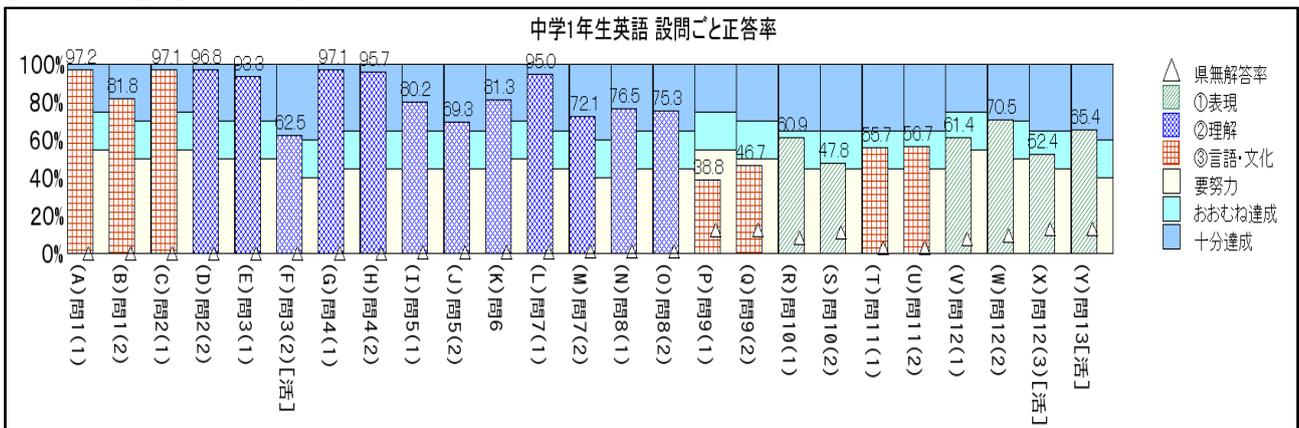
[グラフ1] 教科全体正答率



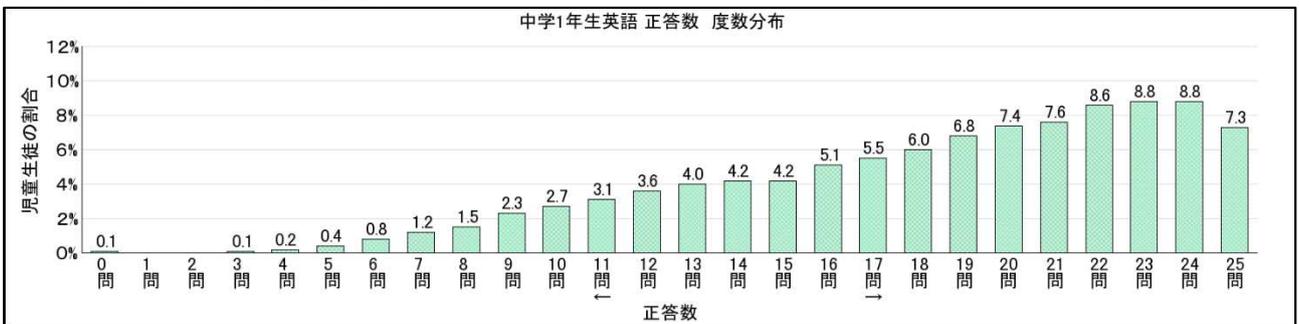
[グラフ2] 「活用」に関する問題の正答率



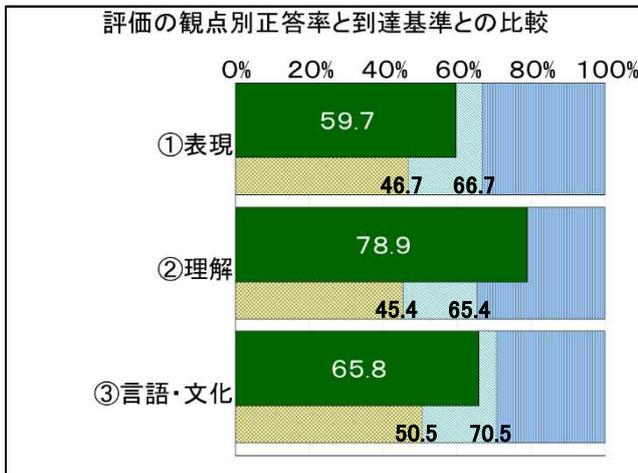
[グラフ3] 設問ごと正答率



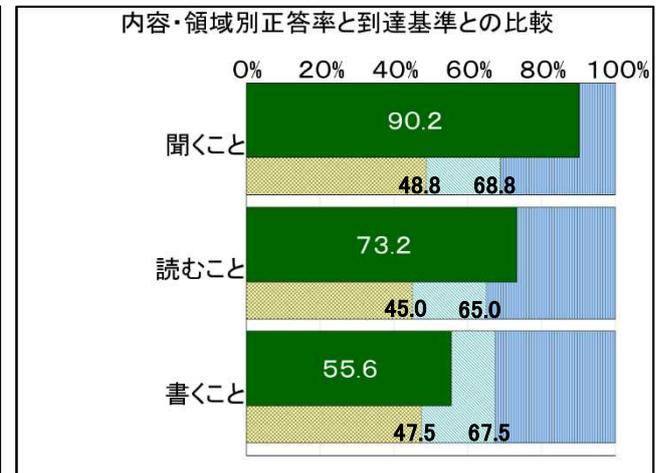
[グラフ4] 教科正答数度数分布



[グラフ5] 評価の観点別正答率

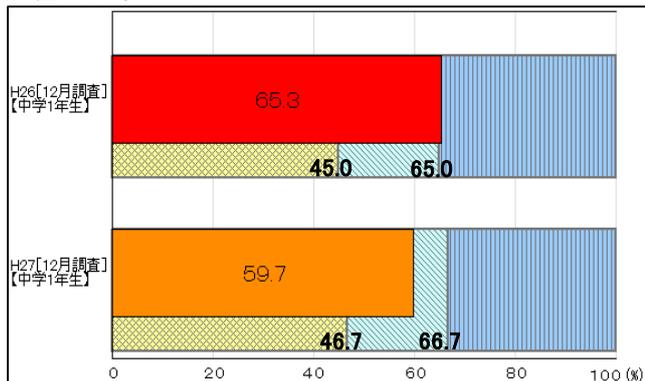


[グラフ6] 内容・領域別正答率

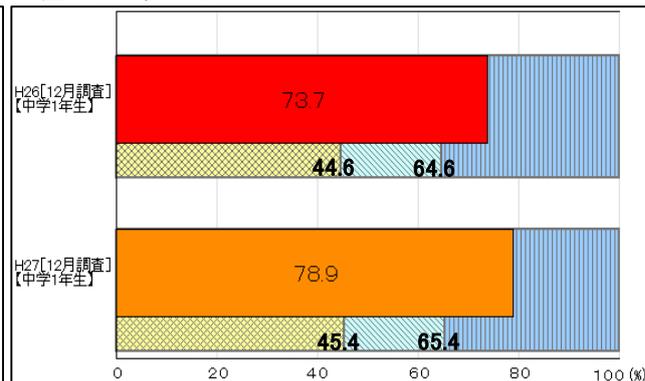


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

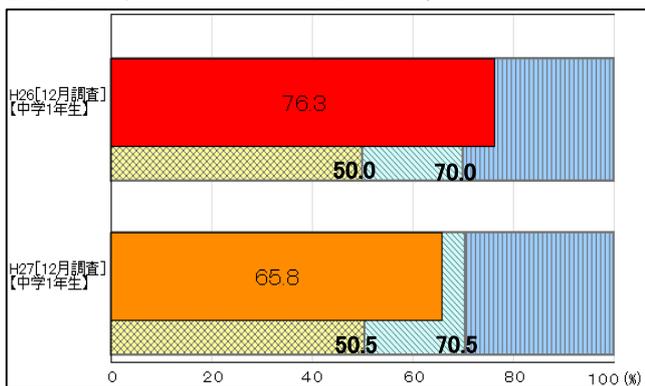
外国語表現の能力



外国語理解の能力

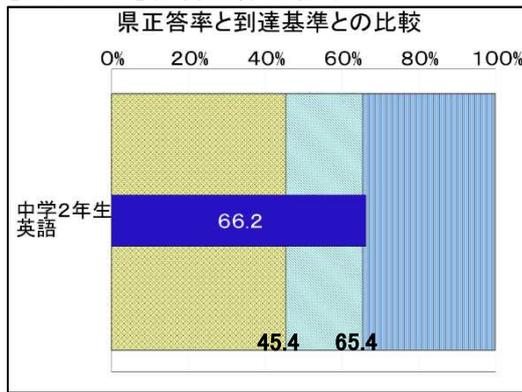


言語や文化についての知識・理解

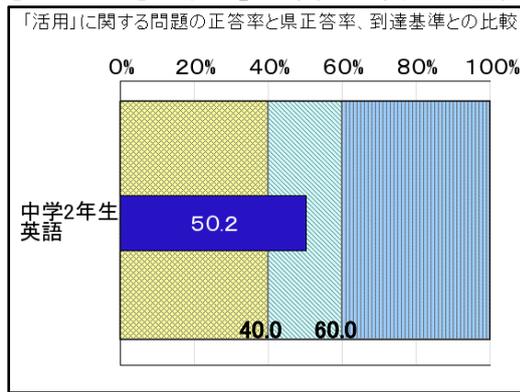


② 中学2年生

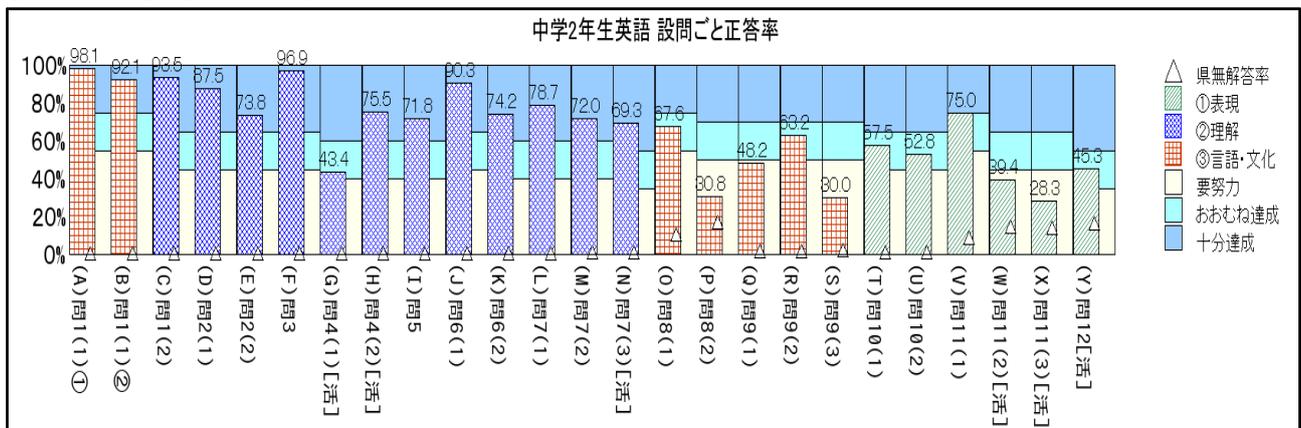
[グラフ8] 教科全体正答率



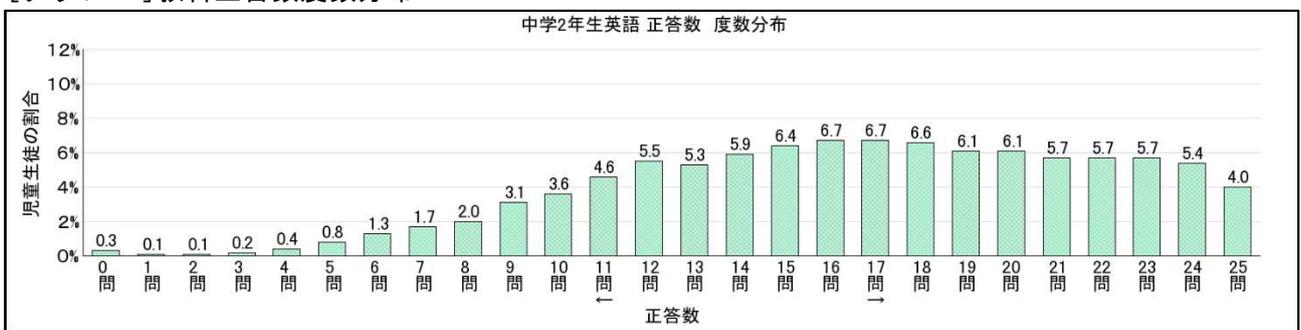
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



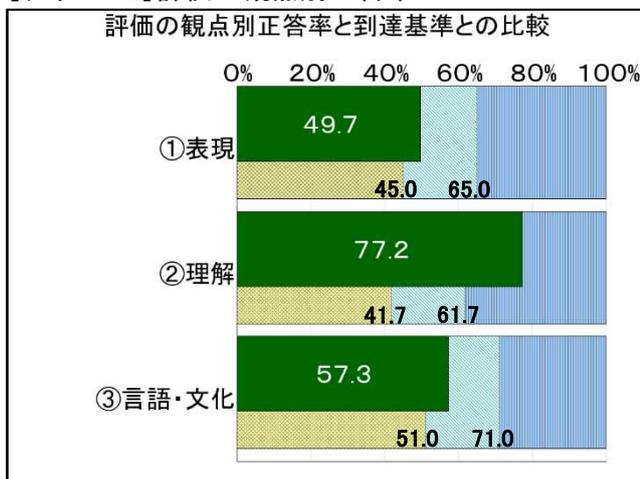
[グラフ10] 設問ごと正答率



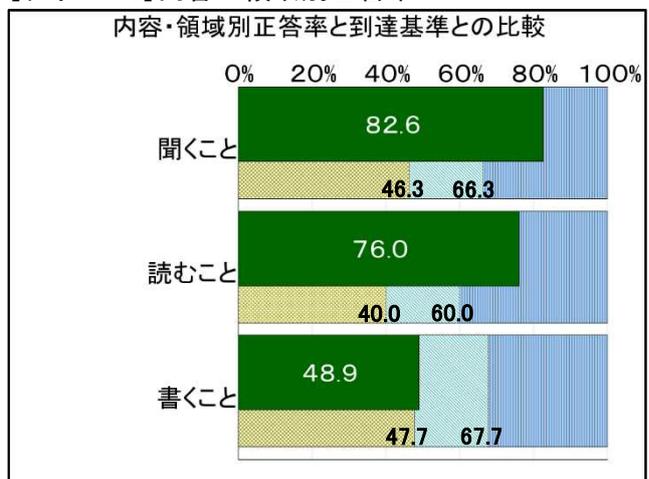
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



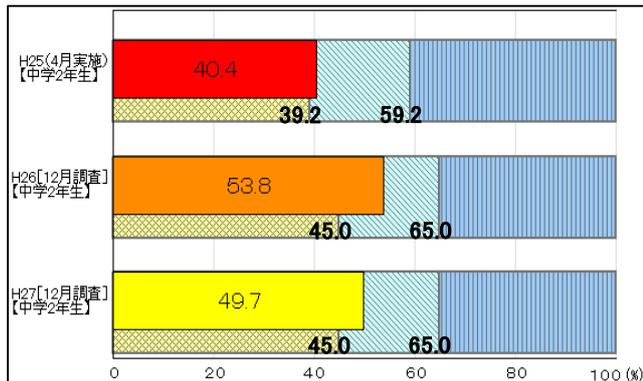
[グラフ13] 内容・領域別正答率



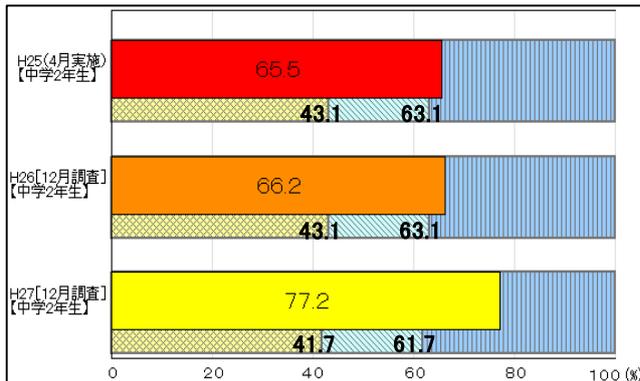
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 25 年度(4 月実施)は、中学 1 年生までの内容で調査。

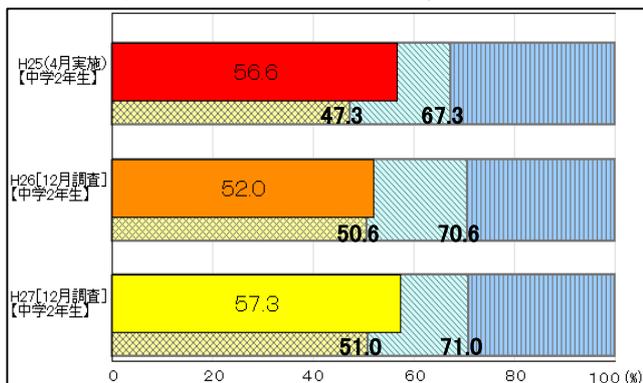
外国語表現の能力



外国語理解の能力

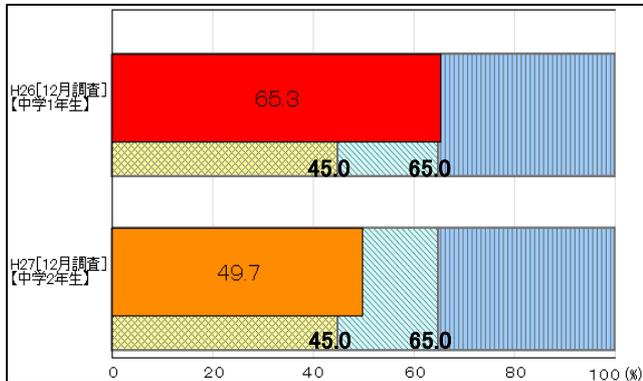


言語や文化についての知識・理解

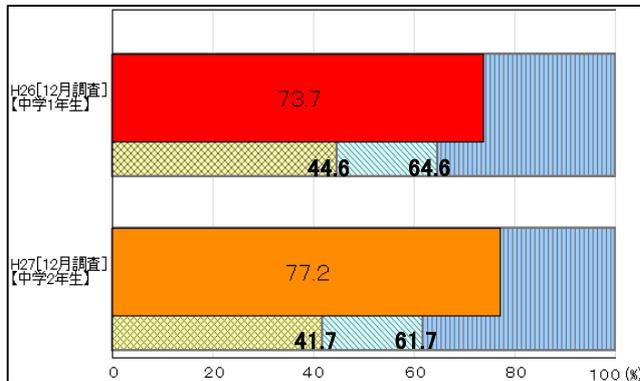


[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

外国語表現の能力



外国語理解の能力



言語や文化についての知識・理解

